



# 手話サークル研究班



～ 「手話」は聴覚障害者にとって大切な言葉です ～

## ～ 「手話サークル研究班」の思い ～

メディアや地域で開催されている手話講習会の影響で手話に興味を持つ人たちが増え、「手話」に対する理解は確実に広がってきました。

でも、「手話」への理解が広がることと、「聴覚障害者」への理解が広がることは、イコールではありません。

手話に関わる時間、年齢等々、さまざまな条件の人たちが集うサークルでは、当然手話技術レベルはまちまちだと思いますが、そこにこだわる前に「手話」を健聴者の自己満足な趣味に終わらせることなく、学んだ手話を通して「聴覚障害者と共に歩む」ということが大切だと思います。

「手話サークル」の役割は、学んだ手話を通し、ろう者と交流しながら「手話」と共に「聴覚障害者」に対する理解を深め、聴覚障害者と地域をつないでいくことだと考えます。

## ～ 「手話サークル研究班」のプロフィール ～

☆2004年4月、9名のメンバーで発足。

☆神通研集会・分科会「手話サークル」の運営を担当。

☆その他、神通研・関東通研・全通研の行事、集会に参加。

☆2007年8月現在、川崎3、横浜3、県域11 計17名で活動中!!

## ～行ってきました! 全通研集会!!～

暑くて、熱い全通研集会 in 宮城でした。

朝のホテルの食事の時、エレベーターで一緒に乗った時、各講座で隣り合わせに座った時、お土産を買う時もトイレで並んでいる時も・・・etc.etc.etc.・・・

手話に関わっているという共通点で結ばれた人たちが、初めましてにもかかわらず、何年も前から知り合いだったかのように、とめどもなく会話ができる。全通研集会は、おもしろい!!

話して、食べて・・・心地良い疲れを感じながら、すがすがしい気分です。「また、どこかでお会いしましょう」を合言葉に、宮城での夏を楽しませていただきました。

神通研集会の参考になれば・・・と参加した第5講座。2日目の「聴覚障害者と災害支援」で伝えられたことは、『自分の身は自分で守るが基本であること』『聴こえないという障害を広く知ってもらうこと』『共同出来る体制を作っておくこと』。これらは災害が起きてからでは難しいとのこと。日頃からの地域との関わりが、大切な命を守ります。

また、1階部分が浸水し、ボートで救出に向かった先で、聴障者が何も知らずに2階で就寝中だった・・・との話は、真剣に受け止めなくてはならないと思いました。

「今、みなさんがやっておくべき事は何でしょう?」という問い掛けがありました。いろいろな場所で多くの人たちと話し合い、考えていきましょう。

## ～ 定例会 ～

\* 8/18 (土) 定例会を行いました\*

9月に開催される、神通研集会のテーマ「災害」についての意見交換を行いました。

昨年川崎市で開催された、ろう者も参加しての防災訓練では、聴こえない人とのコミュニケーションの取り方に慣れていない、一般社会の戸惑いがあったとのこと(集会でこの様子を映したDVDをお見せできる予定です)。手話に対する偏見はなくなってはいますが、聴こえないことへの理解は、まだまだ不足しています。どのような対応が必要なのかを繰り返し発信していきましょう。

【次回定例会】10月13(土) 10:30～  
かながわ県民センター 12階 ボランティアコーナー

## ～サークル研究班メンバーのささやき

以前、同じ手話サークルに通っていて、現在はシンガポールに住んでいる友達が、久しぶりに日本に一時帰国するという事で、サークルの仲間が集まりました。

4年間も会っていなかったのですが、話が盛り上がりました。

後1、2年で日本に戻ってくるということで、また、手話サークルにも通いたい、と話していました。

手話サークルって、そんな暖かい所・・・手話サークル班も同じ暖かさを感じます。

(ペンネーム たわし)